

くもりなきよのひかりにや春日野のおなじみちにもたづねゆるらん、かやうに申かよはせ給ふほどのげにくときこえてめでたく侍りし、なかにも大宮のあそびしたりし、

みかさ山さしてぞきつるいそのかみふるきみゆきの跡をたづねて、これらぞな、おきななごが心のおよばぬにや、あがりてもかくばかりの秀歌えさぶらはじ、その日にとりては、春日明神のよませ給へりけるとおぼえ侍り、

〔伊呂波字類抄五〕梅宮

譜牒男卷下云、太后橘氏神、祭於圓提寺、此神始犬養太夫人藤原不比等妻所祭神也、太夫人于藤原

頭、其後遷祭於相樂郡持山、此神爲仁明天皇成崇、出於御下、復託宣宮人云、我今天子外家神也、我不得國家大幣、

是何緣哉云々、天皇畏之、欲盛立神社、准諸大社、每年令崇壯、太后不肯曰、神道遠而人道近、吾豈得與先帝外家齊乎、天皇固請之、太后曰、但恐爲國家成崇、仍近移祭於葛野川頭、太后自幸拜祭焉、今梅宮祭是也、

〔三代實錄三十六〕元慶三年十一月六日辛酉、停梅宮祭、梅宮祠者、仁明天皇母、文德天皇祖母、太后橘氏之祖神也、歷承和仁壽二代以爲官祠、今永停廢焉、

〔二十二社註式〕今案仁明母、文德祖母、太皇太后橘嘉智子也、嵯峨后左大臣諸兄之曾孫、贈太政大臣奈良麻呂之孫、贈太政大臣清友之子也、此太后者、嘉祥三年五月四日崩六十歲

〔三代實錄四十五〕元慶八年四月七日丁酉、是日始祭梅宮神、是橘氏神、頃年之間、停春秋祀、今有勅更始而祭、

〔小野宮年中行事〕四月上旬日當宗祭事午日使立

仁和四年四月乙亥御記云、朕多之外祖母當宗氏神、在河内國、今年始可祭之、狀仰了、

〔年中行事秘抄四月〕上酉日當宗氏祭事、午日使立世記云、寛平五年四月七日戊辰、是日始奉遣河内